



## 懲罰的と捉えられる長期日勤教育で安全が守れるのか？

### ある新幹線職場で発生した仲間の事象を考える（その2）

#### ○なぜ原因究明が行われないのか

今回の事象は一時的な睡眠が直接的な原因です。原因究明をするのであれば「なぜ寝てしまったのか」について掘り下げなくてはなりません。当該運転士は重度のSASと診断され、治療を行っていました。会社のSAS検査は、まず簡易検査を行い、疑いがあった場合に精密検査を行います。SASと診断されれば乗務制限となり、治療により症状が改善した段階で乗務復帰させることが確認されています。あわせて、当該社員に対しては不利益な扱いを行わないことになっています。しかし、今回の事象は原因究明と対策が行われていません。さらにはSASと診断された場合の取り扱いがルールに則っていないことも大きな問題です。

#### ○懲罰的と捉えられる日勤教育で職場風土はどうか

JR西日本福山線脱線事故は、速度超過が直接的な原因ですが、その背景には「日勤教育」が関係していたことが国土交通省航空・鉄道事故調査委員会最終報告でも明らかになっています。今回のような対応では乗務員はミスを起こした後の処分に怯え正しい報告がされず、その結果重大な鉄道事故を引き起こしてしまう可能性が出てくるのではないのでしょうか？発生事象に対しては原因究明でそれに基づいた対策と教育を行うことが、安全文化を創り上げ、安全を経営の最重要事項（トッププライオリティ）に位置づけているJR東日本が行うべきことではないのでしょうか。



懲罰的と捉えられる日勤教育で本当に安全が創れるのでしょうか？

安全で働きがいのある職場風土は私たちの団結で創らなければなりません。

安心して働ける職場とは何か？仲間の事象を我がものと捉え

職場から運動を創りだしていきましょう！

なお、当該地方本部と支社において緊急団体交渉も開催されています。

詳しくはそちらもご覧ください。